



『陳啓源の詩経学 — 『毛詩稽古編』 研究』 (江尻
徹誠著 北海道大学出版会)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8684

【圖書紹介】

『陳啓源の詩経学——『毛詩稽古編』研究』(北海道大学大学院文学研究科研究叢書18)

(江尻徹誠著 北海道大学出版会 平成二十二年(二〇一〇)三月 全二一六頁)

北海道教育大学釧路校准教授

佐野 比呂己

本書は、江尻徹誠(現・北海道大学大学院文学研究科専門
研究員)が北海道大学に提出した博士論文に、台湾で発表した
二編の学術論文を邦語訳して補ったものである。
本書の構成は以下の通りである。

序 章

第一章 陳啓源『毛詩稽古編』成立とその流布

第二章 『毛詩稽古編』嘉慶刊本の上梓とその影響

——費雲俔『毛詩稽古編附攷』の意味するもの

第三章 『毛詩稽古編』と『詩経通義』

——両書の成立に関する一考察として

第四章 陳啓源の『詩経』解釈

——その方法と後世の評価

第五章 『毛詩稽古編』における詩序論

第六章 清代詩経学における詩序論

第七章 陳啓源の賦比興論

——六義論に関する一考察として

結 語

参考文献

後 序

An outline of this book

中文摘要

人名索引

事項索引

本書の研究目的は、『毛詩稽古編』の文献学的整理、及び陳

陳啓源の詩経学の特色と、その後世に対する影響の解明である。江尻は、まず文献学的整理から研究をスタートする。江尻によれば、江尻の研究以前に、陳啓源とその詩経学の研究は、日本では皆無であり、国外においても二本を数える程度であったという。

Chen qi-yuan's science of Shi-jing: The study of Mao-shi ji-gu bian



北京師範大学陳啓源

陳啓源の詩経学

『毛詩稽古編』研究

江尻徹誠

啓源の詩経学の特色と、その後世に対する影響の解明である。江尻は、まず文献学的整理から研究をスタートする。江尻によれば、江尻の研究以前に、陳啓源とその詩経学の研究は、日本では皆無であり、国外においても二本を数える程度であったという。

『詩経』は中国最古の詩集である。いつしか『五経』のひとつに数えられ、中国における経学の基本典籍として広く読み継がれてきた。しかし、この『詩経』を読むことはなかなか難しく、ゆえに多くの注釈が生まれ、時代ごとに様々な解釈が施されてきた。詩そのものはその語感や余韻を楽しむものでもある。

本書の研究対象である明末清初期の学者陳啓源も、自身には易学という家学がありながら、子どもの頃に口ずさんだ詩のリズムが忘れられずに、ついには『詩経』研究の道を志した人物であった。

やがて陳啓源はその研究成果を『毛詩稽古編』にまとめる。『毛詩稽古編』は三十巻を数える大著で、清朝詩経学を語る上で決して無視できない労作である。

陳啓源はどのような見解をもって『詩経』を把握していたのか。『毛詩稽古編』はどのような過程を経て摺筆し、どのように流布していったのか。そして、中国の『詩経』解釈史上、はたして陳啓源の詩経学にはどのような価値があり、どのような役割を担っていたのか。こうした諸問題に江尻は取り組んだ。

朱熹の詩経学に対する陳啓源の姿勢を確認する中で、『詩序』の解釈を判断基準として朱熹の学説を陳啓源は取捨していることを導き、陳啓源の詩経学を研究する上で、『詩序』への篤信と影響があったことを指摘する。

陳啓源による『詩序』研究は、清初以降の諸学者に脈々と受け継がれ、各自の詩経学を展開させていったことが、清朝に『毛氏』の学の流行を引き起こした一因であったのである。

『詩経』を読む上で、陳啓源は避けては通れない人物である。江尻が陳啓源の詩経学の特色を明らかにし、中国文学史上に位置づけた意義は大きいものがある。